

ヒューマンメディア工学研究室 Human Media Lab (加藤研究室) 研究室公開 in 第 16 回感性工学会大会 (140904)

第16回感性工学会大会を中央大学後楽園キャンパス(加藤研究室のホームグラウンド)で開催するにあたり、下記のスケジュールにより、研究室公開を行います。大会にご参加いただくと同時に、ぜひ、研究室・実験室にお立ち寄りください。

I. 公開スケジュール

日時: 2014年9月4日(木)

16:30-16:40	移動			10分
16:40-17:10	【2号館】 2号館8F 2828	【6号館】 6号館 10F 61029 +9F 6926	【3号館】 3号館9F 3910	30分
17:10-17:20	移動			10分
17:20-17:50	【3号館】 3号館9F 3910	【2号館】 2号館8F 2828	【6号館】 6号館 10F 61029 +9F 6926	30分
17:50-18:00	移動			10分
18:00-18:30	【6号館】 6号館 10F 61029 +9F 6926	【3号館】 3号館9F 3910	【2号館】 2号館8F 2828	30分
18:30	現地解散			

(注) システムの都合やデモの進行状況により、すべての機器・デモが体験できるとは限りません。ご了承ください。

II. 見学の概要

★2号館2828室 感性計測基礎技術(生体計測)

○光脳機能イメージング装置(光トポグラフィ、fNIRS)

○視線追跡装置 tobii

外界からの様々な刺激に対して人間がどのように反応するのか(例: 興味の持ち方、理解の仕方など)を、脳活動や視線の動きの計測を通じて推定する研究を行っています。

また、人にとっての読みやすさとは何かを探る研究も進めています。

★3号館3910室 モノ・コト

○電脳ショップ

ユビキタスに配置されたセンサー群が連携して人間(消費者)や商品の動きを計測することで、個々の消費者の意思決定の状態(コト)を推定したり、関心を持つ製品(モノ)に共通の性質を推定する。

情報機器を操作することを消費者に強いることなく、自然な動きの観測だけから、これらのコト・モノの推定を可能とする仕組みなので、消費者に身体的・心理的な負担を一切かけない実世界インタフェースとなっている。これを活用すれば、例えば、情報機器に対する知識・スキルの乏しい高齢者に対しても、適切なアシストが可能である。

○日々の生活の中での個人支援

モバイル・ウェアラブルな機器を、人間の状態をモニタするセンサー、また、個人への情報の提示装置として利用し、一人一人の行動の状態や高度の文脈に合わせて、「よりよい生活」「よりよい行動」のための情報・気づきを提示する。

★6号館61029室、6926室 モノ・カンケイ

○画像の感性検索

プロのカメラマンの感性を分析・学習し、その感性モデルを利用したイメージ語による写真の感性検索技術や、普通の利用者がその場で手軽に感性を教示するだけで、類似したイメージの写真を自動的に検索できる感性検索技術、消費者の嗜好などを分析・モデル化して消費者に好まれるデザイン（モノ）を支援する技術の開発に取り組んでいます。

○空間演出・空間のイメージ制御・音楽と感性

人間は、環境（例：照明、環境音、アロマなど）から様々な心理的な影響を受ける。室内の利用者の状況（コト）に合わせて、照明・BGM・アロマを動的に制御し、快適性を高めたり、リラックス感を演出したり、作業効率を向上させるなどの空間演出・イメージ制御技術の研究も行っています。

○読む蔵

コミュニティの中で、人が人に対して感じるつながり感・親近感・信頼感などの高次の感性（カンケイ）を分析し、これを学習コミュニティの中でのマッチメイキング（個々の下級生に対して、学びを支援するTAの選定）に応用する。

また、個々人の理解力・興味などの個人性を考慮して、知識・コンテンツを共有する仕組みを実現する。